

日本語教育

日本語研修コース

1. 概要：

- ・ 初級コース（前期・後期）
国費留学生（大使館推薦、教員研修など）、および学内生（正規学生、大学院入学前の研究生）を対象とし、大学内外での生活を一人で成人として乗り切れる日本語力を身につける。
日本語未習者を対象とし、日本語初級レベルの学習を終えるようにする。
集中研修型で実施する。
日本の文化・習慣・社会規範等を授業に盛り込み、日本人との活動も含む学内外の場での日本語学習を実施する。
- ・ 上級コース（後期）
渡日前入学許可制度で翌年4月から正規の学部生となる学生を対象に、学部の授業を理解し、日々の予習・復習ができ、日本人教員やクラスメイトと適切なコミュニケーションができる程度の日本語を身につけることを目的とする。
集中研修型で実施する。
日本人との活動も含む学内外の場での日本語学習を実施し、日本語運用能力を高める。

2. コーディネーター：橋本 智、Gehrtz 三隅 友子

3. 実施概要

・ 平成 28 年度前期

① 開講時期 平成 28 年 4 月 12 日（火）～平成 28 年 8 月 22 日（月）

② 日程

4 月 12 日（火）	コースオリエンテーション・授業開始
4 月 15 日（金）	開講式
5 月 25 日（水）	第一分冊試験
6 月 22 日（水）	「自分の街」プレゼンテーション
7 月 7 日（木）	日本食体験
7 月 23 日（土）	美術館
8 月 3 日（水）	第二分冊試験
8 月 17・19 日（水・金）	徳島文化体験（阿波踊り、端巖寺、眉山、茜庵）
8 月 22 日（月）	スピーチ、修了式

③ 受講生

種別	国籍	性別	研修コース終了後
学内生	モンゴル	女	徳島大学大学院医科学教育部博士課程 在籍
学内生	モンゴル	女	徳島大学大学院先端技術科学教育部博士前期課程 在籍
学内生	中国	男	徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程 入学
学内生	中国	男	徳島大学大学院先端技術科学教育部博士前期課程 入学

④ 教材、担当及び時間割

- ・ 学習内容
 - 1) テキスト
 - ・「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」
(第2版。本冊、翻訳・文法解説。スリーエーネットワーク) 第1～50課

2) 表記

- ・ ひらがな
- ・ かたかな
- ・ 漢字 (323 字。「Write Now! Kanji for Beginners」スリーエーネットワーク)

3) 補助教材

- ・ 聴解用音声ファイル
- ・ DVD
- ・ 「使える会話」(徳島大学国際センター)、自作教材など
- ・ 学習総時間数 240 時間 (教室内。旅行、文化体験、地域との交流などの時間は含まない)
- ・ 担当及び時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
担当	青木	G 三隅	遠藤	古山	橋本
場所	常三島 地域創生・国際交流会館 共用室 303				
08:40～10:10	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
10:25～11:55	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語

⑤ 最終課題 (スピーチテーマ)

- 「楽しい専門」 モンゴル
- 「私の民族」 中国
- 「日本の生活」 中国
- 「光コミュニケーションのしょうらい」 モンゴル

平成 28 年度後期

日本語研修初級コース

① 開講期間 平成 28 年 10 月 8 日 (土) ～平成 29 年 2 月 28 日 (火)

② 日程

- 10 月 8・9 日 (土・日) 旅行 (美波町)
- 10 月 11 日 (火) オリエンテーション・授業開始
- 10 月 12 日 (水) 開講式・キャンパスツアー
- 10 月 28 日 (金) 多文化交流会
- 11 月 2 日 (水) スタディ・ツアー (大塚製薬、藍染め、渦の道)
- 11 月 4・12 日 (金・土) 小学校訪問
- 11 月 12 日 (土) 遍路体験
- 11 月 28 日 (月) 防災訓練
- 12 月 3 日 (土) 書道
- 12 月 12 日 (月) 第一分冊試験
- 12 月 17・18 日 (土・日) 旅行 (京都)
- 12 月 23 日 (金) ～ 1 月 9 日 (月) 冬休み
- 1 月 20 日 (金) 高校訪問
- 1 月 21・22 日 (土・日) 旅行と交流会 (美馬市)
- 2 月 11 日 (土) 文化の森
- 2 月 20 日 (月) 第二分冊試験
- 2 月 28 日 (火) スピーチ、修了式

③ 受講生

種別		国籍	性別	研修コース終了後
国費留学生 教員研修留学生	修了	ソロモン諸島	男	鳴門教育大学大学院で研修
国費留学生 教員研修留学生	修了	マラウイ 共和国	男	鳴門教育大学大学院で研修
国費留学生 教員研修留学生	参加	バングラデシュ人 民共和国	男	鳴門教育大学大学院で研修
国費留学生 大使館推薦	修了	キリバス 共和国	男	鳴門教育大学大学院 入学
国費留学生 教員研修留学生	修了	パキスタン・ イスラム共和国	女	鳴門教育大学大学院で研修
学内生 JICA 研修員	参加	ルワンダ 共和国	男	徳島大学大学院先端技術科学 教育部博士前期課程 入学
学内生 JICA 研修員	修了	モザンビーク 共和国	男	徳島大学大学院先端技術科学 教育部博士前期課程 入学
学内生 JICA 研修員	修了	ナイジェリア 連邦共和国	男	徳島大学大学院先端技術科学 教育部博士前期課程 入学
学内生 JICA 研修員	修了	スーダン 共和国	女	徳島大学大学院先端技術科学 教育部博士前期課程 入学
学内生	修了	中華人民共和国	男	徳島大学大学院先端技術科学 教育部博士前期課程 入学
学内生	修了	ベトナム社会 主義共和国	男	徳島大学大学院医科学教育部 博士課程 在籍

受講者 11 名中、プログラム修了者は 9 名。残り 2 名は病気と一時帰国（家族の事情）という理由でプログラムを最後まで受講しなかったため、参加者扱いとした。

④ 教材、担当及び時間割

- ・ 学習内容
 - 1) テキスト
 - ・「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」
（第 2 版。本冊、翻訳・文法解説。スリーエーネットワーク）第 1～50 課
 - 2) 表記
 - ・ ひらがな
 - ・ かたかな
 - ・ 漢字（198 字。「Write Now! Kanji for Beginners」スリーエーネットワーク）
 - 3) 補助教材
 - ・ 聴解用音声ファイル
 - ・ DVD
 - ・ 「使える会話」（徳島大学国際センター）、自作教材など
- ・ 学習総時間数 380 時間（教室内。旅行、交流会、地域学校との交流などの時間は含
ない）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
担当	青木	古山	遠藤	G 三隅	橋本
場所	常三島 地域創生・国際交流会館 G303				
08:40～10:10	日本語		日本語		日本語
10:25～11:55	日本語		日本語		日本語
12:50～14:20	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
14:35～16:05		日本語		日本語	
16:20～17:50		日本語		日本語	

⑤ 最終課題（スピーチテーマ）

「私の日本の生活」	中国
「楽しいじばんのけんきゅう」	モザンビーク
「しょうらいのゆめ」	パキスタン
「徳島の生活」	ベトナム
「いちばん難しいことば」	キリバス
「スーダンでリサイクルのこうじょうを作る」	スーダン
「ソロモンしょとうのすうがくをかいぜんする」	ソロモン諸島
「ナイジェリアのインフラのメンテナンスについて」	ナイジェリア
「すうがくを楽しくする」	マラウイ

日本語研修上級コース

- ① 開講期間 平成 28 年 10 月 3 日（月）～平成 29 年 2 月 28 日（火）
- ② 日程 開講日と試験を除き、初級コースと同様
- ③ 受講生

種別	国籍	性別	研修コース終了後
渡日前入学許可制度	ベトナム社会主義共和国	男	徳島大学生物資源産業学部 入学
渡日前入学許可制度	ベトナム社会主義共和国	男	徳島大学理工学部 入学

④ 教材、担当及び時間割

1. 全学日本語 D1 「みんなの日本語」中級Ⅱ
2. 科学技術日本語 1・2
「科学技術日本語案内」「科学技術基礎日本語:使える日本語」
3. 日本語聴解 1・2
「留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解・中上級」
「中級から上級への日本語なりきりリスニング」
生教材（ニュース番組など）
4. 日本語表現 1・2
「大学で学ぶための日本語ライティング」「日本語の書き方」
5. 日本語読解
「留学生のための読解トレーニング」
6. 日本語文法・語彙
「考える漢字語彙・上級編」

「にほんご語彙力アップトレーニング」
「日本語表現文型 500」

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
場所	常三島 国際センター教室（総合科学部 1 号館 3 階）・ 地域創生・国際交流会館 G-303				
08:40～ 10:10				日本語表現 1 （遠藤）	日本語聴解 1 （古山）
10:25～ 11:55	全学 日本語 D1 （秋永）	科学技術 日本語 2 （橋本）	日本 事情 II （G 三隅）	日本 事情 IV （G 三隅）	
12:50～ 14:20		日本語表現 2 （G 三隅）	日本語文 法・語彙 （橋本）	全学 日本語 D1 （古山）	
14:35～ 16:05	科学技術 日本語 1 （橋本）				日本語読解 （秋永）
16:20～ 17:50		日本語 6 （橋本）			日本語聴解 2 （青木）

その他、学部の授業を聴講。補講授業も行った。

⑤ 最終スピーチテーマ

「勉強の仕方」 ベトナム
「日本に来てから気がついたこと」 ベトナム

教養教育院「日本語」・「日本事情」・「国際交流の扉を拓く」

1. 概要：

今年度の共通教育日本語・日本事情には新入学部学生が少なく、ほとんどが協定大学の交換留学生の受講であった。受講者は日本語能力 N2 以上がほとんどであり、前期後期を通じて様々な学習活動が展開できた。また平成 27 年度に終了した文部科学省留学生交流拠点整備事業(平成 25-27 年)を継続した活動も授業内で可能となった。そして学内はもとより学外の地域のイベントに参加し、様々な世代と交流しながら対話による日本語力の向上と日本文化の体験学習が実現できた。

2. コーディネーター：Gehrtz 三隅 友子

3. 実施概要：日本語 1～8、日本事情：日本事情 I～IV

- 平成 28 年度教養教育院「日本語」「日本事情」では以下のクラスを開講した。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2					
3・4			日本事情 I・II	日本事情 III・IV	
5・6					
7・8	日本語 1・2	日本語 7・8			
9・10	日本語 3・4	日本語 5・6			

前期：日本語 1・3・5・7、日本事情 I・III、後期：日本語 2・4・6・8 日本事情 II・IV

日本語 1 前期

- 担当者： 遠藤 かおり
- 受講人数： 4 名（中国 1 名、台湾 2 名、スウェーデン 1 名）
- 使用教材： 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』
石黒 圭・筒井千絵 スリーエーネットワーク
他適宜プリント配布
- 概要： 本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。四技能のうち、「書く」ことを主とし、日本語の基本的な構造に深くかかわる文法項目の見直しと強化を行った。身近な文章から誤解を与えない正確な表現力を見につけ、正確に発信ができる基盤固めを行った。同時に語彙力強化をも行った。授業は、テーマごとに書かせた課題作文を元に不注意なミスや不適切な表現を取り上げ、問題の意識化を図ることでさらなるレベルアップを図った。

日本語 2 後期

- 担当者： 遠藤 かおり
- 受講人数： 10 名（中国 6 名、スウェーデン 2 名、マレーシア 2 名）
- 使用教材： 『小論文への 12 のステップ』
友松悦子 スリーエーネットワーク
他適宜プリント配布
- 概要： 本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。アカデミックジャパニーズ（レポート・小論文を書く、プレゼンテーションをする）の基礎となる

部分の習得であり、身近なテーマで描写表現等での自他動詞の復習、思考表現の訓練をした。その過程で、自分でも気づかずに使用していた日本語の見直しをし、弱点を意識化することでレベルアップを図った。最終的にはプレゼンテーション等での資料説明のための日本語として、グラフの読み方を強化した。他のクラスにおいてスムーズな活動の遂行や論理的な文構成ができることを念頭において行った。

日本語 3 前期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 5 名（中国 5 名）
- ・ 使用教材： ワールドビジネスサテライト（テレビ大阪）、アジア人財資金構想事業共通教材、「しごとの日本語・ビジネスマナー編」釜淵優子 アルク、他
- ・ 概要： 「日本で働く」ことをトピックに、総合的な日本語レベルの向上を目標とした。就職活動時や日本の企業で働くときに求められる日本語の習得を目指した。就活の時期、ビジネスでの手紙の書き方、ビジネスマナーなどを学んだ。
また、ニュース番組の一つのコーナーを取り上げ、聴解の練習に加えて、ビジネス用語に慣れ、最新のニュースの理解ができるようにした。

日本語 4 後期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 8 名（中国 4 名、台湾 1 名、スウェーデン 3 名）
- ・ 使用教材： 徳島新聞、アジア人財資金構想事業共通教材、「新入カトレニング」池谷聡 TAC 他
- ・ 概要： 「ビジネス日本語」という切り口で、就職活動時や日本の企業で働くときに求められる日本語やビジネス文化の習得を目指した。前期の内容をカバーしつつ、学生のレベルとニーズに合わせて、就活関連の活動、エントリーシートや履歴書の書き方、面接の準備などを扱った。ビジネスニュースに慣れ、ビジネス用語や表現を増やすため、徳島新聞の読解やビジネス用語の漢字学習も行った。

日本語 5 前期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 4 名（中国 4 名）
- ・ 使用教材： 「留学生のための大学の授業へのアプローチ」ピロッタ丸山淳 凡人社、「講義を聞く技術」産能短期大学日本語教育研究室 産能大学出版部、他
- ・ 概要： 大学の授業を聞くための技術を学び、実際に講義を聞いて聴解の能力向上を目指した。また、講義を聞きながらすばやくノートをとるための練習として、要約文の書き方や箇条書きの書き方、箇条書きから文章に直す方法なども学習した。

日本語 6 後期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 人数： 9 名（中国 3 名、台湾 1 名、スウェーデン 3 名、ベトナム 2 名）
- ・ 使用教材： 「留学生のための大学の授業へのアプローチ」ピロッタ丸山淳 凡人社、「講義を聞く技術」産能短期大学日本語教育研究室 産能大学出版部、他
- ・ 概要： 日本語 5 を履修した学生がおらず交換留学生のみのクラスになり、履修

学生の聞き取り能力の向上が必要であると思われたため、日本語 5 で扱った講義を聞くための技術を習得する授業を行った。また、上級語彙を増やすため、擬態語擬音語や外来語（カタカナ）の聞きとりと意味の確認や上級漢字も扱った。

日本語 7 前期

- ・ 担当者： Gehrtz 三隅 友子
- ・ 受講人数： 9 名
(スウェーデン 3 名、マレーシア 2 名、モンゴル 2 名、中国・台湾 1 名)
- ・ 使用教材： 『パパとムスメの 7 日間』 DVD 映像 TBS テレビドラマ及び映像を基にした自主作成教材
- ・ 概要： 生教材のドラマを使うことによって、より現実に近い日本語とその文化的背景を学ぶことを目標とした。特に教材として使用したドラマは、学校、家庭そして会社という場面によって一人の人物が異なる表現を使い分けている事実に着目した。さらにジェンダーに表される非言語の要素の理解から、日本社会と日本人の行動に関して考える機会を持った。また日本文化特有の行動について自国との比較も含めた話し合いも行った。

日本語 8 後期

- ・ 担当者： Gehrtz 三隅 友子
- ・ 受講人数： 6 名 (中国 3 名、スウェーデン・マレーシア・台湾各 1 名)
- ・ 使用教材： 『ハケンの品格』 DVD：映像フジテレビ及び映像を基にした自主作成教材
- ・ 概要： 生教材のドラマを使うことによって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材は、会社での地位や人間関係によって一人の人物が異なる様々な表現方法を使用することに注目した。コミュニケーションに必要な非言語の要素の理解から、日本社会と日本人の行動に関しての理解を深めた。授業の方法として、各自が事前学習としてドラマ視聴とスクリプト確認を行い、授業内では、内容の確認とシーンを演じる活動を行った。最終課題は一人の人物を取り上げ、ストーリーの展開とともにその人物の言語や行動がどのように変化したかを記述し、さらにそれらを互いに読み合い感想を共有した。

日本事情 I 前期

- ・ 担当者： Gehrtz 三隅 友子
- ・ 受講人数： 9 名 (中国 3 名、マレーシア 1 名、スウェーデン 2 名、モンゴル 2 名、カザフスタン 1 名)
- ・ 使用教材： 適宜プリント教材を配布
- ・ 概要： 徳島の文化と社会を日本人学生との協同学習によって知ること、日本語に限らず言語以外にも様々な方法によるコミュニケーションを体験的に学ぶこと、さらに学外の活動に参加することを中心に行った。さらに授業内では、また日本人学生及び社会人（「異文化交流から学ぶグローバル化」受講者）との協同学習の場を設け、日本人への提言作成に関してはグループワークによって、問題設定-調査-意見交換-最終課題の作成-発表会を行った。「日本人への提言」の各テーマは以下である。また

授業内で徳島県外国人日本語弁論大会の参加者のスピーチを公開練習の場とし、互いに指摘し改善する活動も行った。

- | | |
|------------------|-------------|
| ① 私から見た日本人 | ② 目立つということ |
| ③ 日本の謝罪文化 | ④ 本音 |
| ⑤ もっと愛情を持とう | ⑥ 大学生の異文化交流 |
| ⑦ 日本に来てから気がついたこと | ⑧ 日本で母親になって |

日本事情Ⅱ 後期

- ・ 担当者： Gehrtz 三隅 友子
- ・ 受講人数： 9名（中国6名、ベトナム2名、モンゴル1名）
- ・ 概要： 徳島の文化と人を日本人学生との協同学習によって学ぶ、日本語に限らず言語以外にも様々な方法でコミュニケーションをとることを体験的に学ぶこと、さらに学外の活動に参加することを中心に行った。異文化に対して気づく⇒日本語のことばに関するビデオ画像の作成⇒音楽を使った英語のミニミュージカル作成⇒日本人への提言作成と発表（留学生）という流れからアクティブ・パフォーマンスラーニングを、さらには相互及び自己評価活動を体験した。

「日本人への提言」の各テーマは以下である。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ① 日本に来てから、気になったこと | ② 勉強の仕方 |
| ③ 世界で活躍したいですか？ | ④ 日本へ来て気がついたこと |
| ⑤ 自分の独自性を表現しよう！ | ⑥ 日本人の曖昧さ |
| ⑦ 郷に入って郷に従う？ | |
| ⑧ 万卷の本を読み、万里の道を行く | |

今期も、教養教育院「異文化交流体験から何を学ぶのか」受講の日本人学生・社会人と協同学習の場を設定し、合同で活動を行った。



協同学習の様子

日本事情Ⅲ 前期

- ・ 担当者： Gehrtz 三隅 友子
- ・ 受講人数： 9名（マレーシア2名、中国2名、モンゴル2名、台湾3名）
- ・ 使用教材： 適宜プリント配付
- ・ 概要： 文部科学省留学生交流拠点事業を継続し、とくしま異文化キャラバン隊のコアメンバーとして活動を行った。特に生活衛生同業組合の「外国人旅行者」受け入れ事業（徳島県生活衛生営業指導センター）と県の教育委員会の「あわっ子文化大使」活動の支援を行った。授業内外で体験的に日本語と日本文化を学んだ。特に自国の観光客の視点から、事業主と交流を通してアドバイスを提供できた。

- ・ 活動内容：
 - (生活衛生同業組合関連)
 - 6月23日 銭湯体験
 - 30日 理容体験
 - 7月7日 寿司のにぎりそば打ち体験
 - 14日 クリーニング体験
 - 21日 阿波ブランドの食肉調理体験
 - 28日 社交飲食体験
 - (あわっ子文化大使関連)
 - 5月21日 吉野川クルーズと人形浄瑠璃体験
 - 6月4日 四国遍路体験 鶴林寺・立江寺
 - 8月5日 人形浄瑠璃と遍路の英語パンフレット作成

日本事情Ⅳ 後期

- ・ 担当者： Gehrtz 三隅 友子
- ・ 受講人数： 6名（中国3名、ベトナム2名、台湾1名）
- ・ 概要： 文部科学省留学生交流拠点事業のとくしま異文化キャラバン隊のコアメンバーとして活動を行った。授業内外でいくつかのプロジェクトワークを通して体験的に日本語と日本文化を学んだ。
- ・ 活動内容：
 - 10月8-9日 日和佐八幡神社秋祭り 支援
 - 23日 那賀町と太龍寺訪問（11月18日授業内で発表会）
 - 30日 あわっ子文化大使 鶴林寺お遍路ガイド
 - 11月 3日 あわっ子文化大使 農村舞台ガイド
 - 4日 徳島県職員との交流活動（自治研修センター主催国際化講座）
 - 1月21-22日 オデオン座国際プロジェクト（美馬市脇町劇場オデオン座演劇活動）

上記の活動に関しては、以下の国際センターホームページ内とくしま異文化キャラバン隊2016を参照のこと
<http://caravantai.blogspot.jp/>



オデオン座国際プロジェクト

教養教育院 グローバル化教育科目 共創型学習「国際交流の扉を拓く」前期

- ・ 担当者： Gehrtz 三隅 友子、金 成海
- ・ 受講人数：59 名（日本人学生 50 名、留学生 8 名、社会人 1 名）
- ・ 概要：今年度の本授業は当初予定のセンター教員によるオムニバス形式ではなく、一人の担当教員によって実施した。4 月～5 月は自らのコミュニケーションを振り返り体験的に学ぶワークショップ形式、6 月は多文化共生に関しての講義、7 月は来徳したドイツ人高校生との交流活動を企画・実施・振り返ることを行った。さらに受講者に 8 月に国際センターが実施したサマースクールのプログラムへの参加を促し、40 人の留学生との交流を体験する機会を提供した。
- ・ 活動内容：
 - 7 月 14 日 地域創生・国際交流会館 2 階コミュニケーションスペースにて
交流活動（交流の様子は徳島大学動画集にて視聴可能）
 - 8 月 6 日 青年会議所と連携して徳島まち歩きを実施 （マップ作成）
 - 8 月 7 日 文化の森にて交流活動 （マップ作成）



「国際交流の扉を拓く」受講生ら

全学日本語コース

1. コース概要

- ・ 未習から上級までの日本語学習を希望する学生、研究者とその成人家族を対象とする。
- ・ 専門の勉強・研究をしている学生・研究者が、日常生活に不可欠な日本語を習得するための授業を行う。
- ・ 常三島・蔵本キャンパスで実施する。
- ・ 希望者には参加証書を発行する。

2. コーディネーター：橋本 智

3. 実施概要

・ 開講クラス及び使用教材

A1・A2	「みんなの日本語初級Ⅰ」スリーエーネットワーク
B1・B2	「みんなの日本語初級Ⅱ」スリーエーネットワーク
C1・C2	「みんなの日本語中級Ⅰ」スリーエーネットワーク
D1・D2	「みんなの日本語中級Ⅱ」スリーエーネットワーク
M	「留学生のためのやさしい医学用語 Vol.1」熊本大学留学生センター 「留学生のための漢字の教科書初級 300」国書刊行会

・ 受講者数

受講者総数（前・後期合計） 130 名（申込人数 138 名）

<前期> 2016 年 5 月 10 日～2016 年 7 月 15 日

開講クラス	人数（申し込み時の人数）	
	常三島	蔵本
A1	8 (9)	5(4)
A2	16(17)	(3) 開講せず
B1	10(10)	4 (3)
B2	—	—
C1	7 (7)	7 (7)
C2	—	—
D1	—	—
D	—	—
M	—	10 (10)
小計	41 (43)	26 (30)
合計	67 (73)	

<後期> 2016 年 10 月 17 日～2017 年 1 月 27 日

開講クラス	人数（申し込み時の人数）	
	常三島	蔵本
A1	10 (10)	2 (4)
A2	6 (6)	5 (5)
B1	7 (7)	—
B2	7 (7)	—
C1	6 (7)	6
C2	—	(6) C1 に変更
D1	4 (6)	—

D2	—	—
小計	40 (42)	13 (13)
合計	63 (65)	

4. 2016 年度前期 開講状況

・ 常三島キャンパス

(教室：総合科学部 1 号館国際センター教室、地域創生・国際交流会館 G303)

	月	火	水	木	金
08:40～		A2-2		A2-2	
10:25～	A2-1	A1		A2-1	A1
12:50～	B1 C1		C1	B1	
14:35～					
16:20～					

・ 蔵本キャンパス (教室：蔵本会館 多目的室 5)

	月	火	水	木	金
08:40～					
10:25～	B1			B1	
12:50～	A1			A1	
14:35～	C1				C1
16:20～					M

5. 2016 年度後期 開講状況

・ 常三島キャンパス

(教室：総合科学部 1 号館国際センター教室、地域創生・国際交流会館 G303)

	月	火	水	木	金
08:40～					
10:25～	D1	B2			B2
12:50～	A2	A1		A2 D1	A1
14:35～			B1		B1
16:20～	C2				C2

・ 蔵本キャンパス (蔵本会館 多目的室 5)

	月	火	水	木	金
08:40～					
10:25～	A1			A1	
12:50～	A2			A2	
14:35～	C2			C2	
16:20～					

6. アンケート結果

前期 回答数： 34 名

質問 日本語クラスはどうでしたか。

とても満足した 25 名 (74%) 満足した 8 名 (23%)

普通 1 名 (3%) あまり満足しない、全く満足しない 0 名

どうしてですか。

- ・ 先生が分かりやすく教えてくれた。良く準備をしてくれているのが分かった。学生に話させていたので、クラスで日本語をたくさん話すことができた。
- ・ ペアでの会話練習をしたので、実際に使えるようになった。
- ・ 日常生活がしやすくなった。
- ・ 宿題・話し方の間違いを訂正してくれた。

その他のコメント

- ・ 英語で説明してくれれば、もっとわかりやすい。
- ・ クラスメイトはミスを訂正されたりして、あまり楽しそうではなかった。
- ・ クラスの時間が短い。今の倍の時間でもいい。複数のクラスが履修できればいい。
- ・ 関連した語彙をもっと教えてほしい。
- ・ もっと書く練習をしたい。
- ・ 日常会話の練習をもっとしてほしい。
- ・ 昼休みに授業をしてほしい。
- ・ 漢字クラスを作ってほしい。
- ・ いろいろな国の人と勉強ができて、おもしろかった。

後期 回答数： 29 名

質問 日本語のクラスはどうでしたか。

とても満足した 20 名 (69%) 満足した 9 名 (31%)

普通、あまり満足しない、全く満足しない 0 名

どうしてですか。

- ・ 会話ができた。友だちと話せるようになった。日本語が使えるようになった。
- ・ 多くの知識を学ぶことができた。
- ・ 日本語が分かるようになった。
- ・ 先生が熱心で、忍耐強い。説明がよかった。教科書以上のことを教えてくれた。
- ・ 授業が分かりやすかった。

その他のコメント

- ・ クラスで日本語を話す練習ができてよかった。
- ・ 日本語は難しいけど、おもしろい。
- ・ 午前中の授業のほうがいい。
- ・ もっと時間を増やしてほしい。
- ・ ビデオなどを使った聴解や書くスキルの勉強をしたい。

総合科学部 日本語教員養成に関する科目

1. **概要：**総合科学部の専門科目「日本語教員養成に関する科目」として、日本語教授法Ⅰ・Ⅱ、日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ、の4講義を国際センター日本語教育部門の教員が担当している。日本語教授法Ⅰ・Ⅱ、日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱは隔年開講のため、2016年度は以下の3科目が開講された。
2. **コーディネーター：**Gehrtz 三隅 友子
3. **実施概要：**日本語教育方法論Ⅰ（前期／火曜 3,4 限）
日本語教育方法論Ⅱ（後期／火曜 3,4 限）
4. **日本語教育方法論Ⅰ 前期**
 - ・ 担当： 橋本 智
 - ・ 受講人数： 16名（日本12名、中国3名、スウェーデン1名）
 - ・ 使用教材： 「新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門」 ASK
 - ・ 概要： 言語教育で用いられてきた様々な方法・メソッドを知り、効果的な日本語教育の仕方を考えた。実際に日本語を教えるにあたり、どのように授業を行っていけばいいのか、具体的な流れ（カリキュラム、コースデザイン、教室活動・授業の流れ、教授法）を扱った。
5. **日本語教育方法論Ⅱ 後期**
 - ・ 担当： Gehrtz 三隅 友子
 - ・ 受講人数： 20名（留学生中国6名、スウェーデン1名を含む）
 - ・ 使用教材： 「生活者としての外国人」に対する日本語教育（文化庁）
「テーマで学ぶ基礎日本語1」西口光一 くろしお出版
 - ・ 概要： 日本語を外国語として教える方法について国際センターの日本語研修コースの教育内容を紹介しながら、コミュニケーション能力を獲得するための教育や学習とは何かを共に考えた。また後半は新しい初級日本語教科書を取り上げ、分析考察を行い、模擬活動を実施して、日本語教師としてどのように学習者働きかけをするかを体験した。